

国際共同研究部

Division of International Cooperative Researches

研究支援推進員 岩白 円

Assistant

Madoka Iwashiro

◇目的 Aims

伝統薬物・薬用植物に関する国際的共同研究の推進を目的に、(1)タイ国との拠点大学方式による交流事業、(2)ミャンマーとの海外協力事業および(3)北京大学薬学院との共同研究拠点(International Collaboration Center for Conservation and Efficient Utilization of Medicinal Resources)事業を展開している。(4)また和漢医薬学研究推進ネットワークを構築し、情報の共有化を図る。

◇活動事業実績 Archivements

1) タイ国との拠点大学方式による交流事業実績

タイ国との拠点大学方式による交流事業は、平成13年に日本学術振興会の支援を受けて本学(和漢医薬学総合研究所)を日本側拠点大学としてスタートした。本事業では、難治性疾患、特に老年性認知症、癌、アレルギー、および感染症等の疾患に焦点を当てて下記の5研究課題を設け、それらの疾患の予防や治療に有用な天然薬物の研究と開発を目標としている。

本年度は29名のタイ側研究者を招聘し、本学(招聘者数:4名)ならびに日本側協力大学(招聘者数:25名)において共同研究が行われた。

研究課題1: 老人性疾患の予防と治療に有用な天然薬物の研究(26報)

研究課題2: アレルギー性疾患及び癌の予防や浸潤・転移を抑制する天然薬物の研究(10報)

研究課題3: 肝炎(肝障害を含む)及び数種の感染症に有効な天然薬物の研究(44報)

研究課題4: 天然薬物の構造・合成・活性発現の分子機構の研究(14報)

研究課題5: タイ産薬用植物成分の生合成に関する分子生物学とバイオテクノロジー研究、及びタイ産薬用植物のデータベースの確立(10報)

(括弧内は本年度発表された原著論文数を示す)

さらに各課題内、課題間の研究者交流を促進する目的で、タイ研究者の招聘にあわせて拠点交流セミナーを開催(下記)した。

第1回拠点交流セミナー

日時: 2008年10月29日(水) 16:30~18:10

場所: 千葉大学大学院薬学部会議室

演題1: Pharmacological research: Endothelium functions and the vascular system.

(Dr. Suree Janmonkol, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Chulalongkorn University)

演題2: Screening of Topoisomerase I inhibitor activity from Thai medicinal plants by yeast cell-based assay.

(Dr. Suchada Sukrong, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Chulalongkorn University)

第2回拠点交流セミナー

日時：2008年11月12日（水）14:00～15:30

場所：富山大学医薬学系（杉谷）キャンパス、共同利用研究棟会議室

演題1：Antitumor effects of protocatechuic aldehyde

(Dr. Kriengsak Lirdpramamongkol, Chulabhorn Research Institute)

演題2：Development of mouth wash from the Garcinia mangostana fruit hull extract

(Dr. Amornrat Viriyaraj, Faculty of Pharmacy, Srinakharinwirot University)

演題3：Effect of nitroarginine derivatives on the level of nitric oxide in rat brain via in vivo microdialysis (Dr. Chantana Boonyarat, Faculty of Pharmacy, Khon Kaen University)

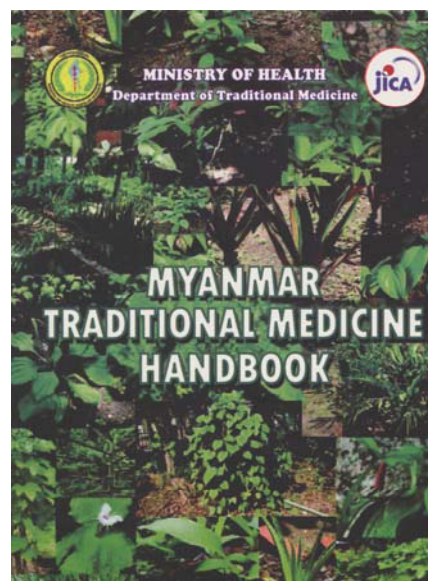
（文責：松本 欣三）

2) ミャンマーとの海外協力事業

国際協力機構(JICA)の支援を受けて、門田をリーダーとする5人の専門家（浜崎、門脇、済木、手塚、S.Awale）は、ミャンマー連邦国の保健医療サービスの向上の一端を担う「伝統医療プロジェクト」を2006年11月から2009年1月までの2年3ヶ月間の計画で実施しています。これは安価で副作用が少なく貧困層を中心に多くの国民が日常的に利用している伝統医療サービスが向上することを目標とするプロジェクトです。今年（平成20年、2008年）に行った派遣ならびに活動等を箇条書きにします。

- 1) 門田重利（派遣期間：平成20年2月5日～2月10日）プロジェクトの運営指導調査：ミャンマー国関連機関との間のプロジェクトの進捗の確認と今後の方向性に係わる協議を行った。
- 2) 手塚康弘、S.Awale（派遣期間：平成20年7月19日～7月25日）伝統医療従事者向けの英語版ハンドブックの指導ならびに補足を行った。また、研修の具体的な内容と準備等の打ち合わせを行った。
- 3) 「伝統医療」カウンターパート研修：ミャンマー国研修員[ミャンマー保健省伝統医療局局长（Dr. Tin Nyunt）；ヤンゴン伝統医療病院院長（Dr. Theim Kyaw）]（受入れ研修期間：平成20年10月6日～10月17日）日本における伝統医療分野の現状および人材育成について理解し、ミャンマー国の伝統医療の向上に関する提言等を研修レポートとして纏め報告した。
- 4) 浜崎智仁（派遣期間：平成20年11月28日～12月10日）マンダレー伝統医療大学に於て、ハンドブックの内容普及のために、「伝統医療師向け研修の講師に対する研修（TOT）」、「伝統医療師向け研修（TMT）」を実施した。
- 5) 門脇 真（派遣期間：平成20年12月7日～12月11日）マンダレー伝統医療大学に於て、ハンドブックの内容普及のために、「伝統医療師向け研修の講師に対する研修（TOT）」、「伝統医療師向け研修（TMT）」を実施した。
- 6) 門田重利（派遣期間：平成20年12月9日～12月20日）プロジェクト開始より2年、来年のプロジェクト終了を控え、これまでの活動を振り返り、ミャンマー伝統医療局と評価報告書作成のための提言の纏めや教訓の分析等について討議し、評価報告書（案）を作成した。

（文責：門田 重利）



3) 北京大学薬学院との共同研究拠点事業

和漢医薬学総合研究所は 2005 年に北京大学医学部と「薬用資源研究における国際協力拠点設置に関する協定」を結び、それぞれに共同研究拠点を設けている。2007 年にはこの協定を具体的に展開させるため、「漢方医薬共同研究に関する協定」を新たに締結した。これらの協定に基づき、本年は次のような活動を行った。

1) 学術交流

2008 年 8 月 2 日～8 月 4 日：蔡 少青教授が当研究所を訪れ、天然薬物の国際標準化に関する共同研究の打合せを行った。また、The 7th International Symposium on Natural Medicine and Microflora (Toyama) で招待講演を行った。

2) 共同学術調査

9 月 2 日～9 月 14 日：小松かつ子、白 焱晶（博士課程 1 年、元北京大学医学部薬学院講師）他が、中国広西壮族自治区及び安徽省で、天然薬物標準化のための道地薬材の調査を実施した。

3) 共同研究

2 月 4 日～8 月 6 日：北京大学大学院薬学研究科の樊 蘭蘭を特別研究学生として受け入れ、「中国産 *Stemona* 属植物の遺伝子解析と百部の簡便な同定法の開発」に関する共同研究を行った。

（文責：小松 かつ子）

4) 和漢医薬学研究推進ネットワークを構築・共有化

- 1) 和漢薬の基礎・臨床研究に関する情報・知識を集積、交換、発信するとともに国内及び国際的共有化を図り、併せて国内・国際共同研究を推進する中核的拠点を形成することを目的としたネットワークを平成 17 年度に立ちあげた。本年も、登録会員の方へのメールによる情報（和漢薬関連のセミナーやシンポジウムの開催予定など）配信サービスを行った。

- 2) 第 28 号配信・・・5 月 7 日 （開催情報 1 件、リンク先掲載 1 件）
第 29 号配信・・・5 月 13 日 （開催情報 3 件、リンク先掲載 3 件）
第 30 号配信・・・6 月 9 日 （開催情報 3 件、リンク先掲載 3 件）
第 31 号配信・・・11 月 20 日 （開催情報 1 件）

（文責：岩白 円）